

奈良県立医科大学 学報



同志社女子大学学生による院内コンサート 挨拶する古家病院長

CONTENTS

奈良県立医科大学・同志社女子大学連携講座	1
同志社女子大学との合同講義開催報告/明日香村と地域医療連携事業実施	2
に関する協定を締結	
教授就任挨拶/平成23年度法人業務の実績に関する評価結果	3
平成25年度入試日程/解剖慰霊祭/実験動物慰霊祭	4
オープンキャンパス開催報告/女子高生の医理系進路選択支援事業開催報告	5
早稲田大学との合同講義開催報告/学生ボランティアの復興支援活動	6
西医体成績	7
研究医養成コースがスタート/学園祭開催案内	8
クラブ紹介(ラグビー部・ダンス部)	9
図書館だより/医療倫理講習会開催報告	10
公開講座開催報告/奈良県教職員のための夏の公開講座を実施	11
産学官連携だより	12~13
福建医科大学代表团が表敬訪問	13
病院総合案内付近改修/針刺し事故防止のために	14
病院病理部改修/臨床研修センターにイベント表示盤を設置	15
高度医療技術修得者認定式/中学生が医師・看護師にインタビュー	16
なかよし保育園園児たちが秋の交通安全運動に参加	
看護教育講師制度がスタート	17
活躍する専門・認定看護師	18~19
特別支援学校生徒のインターンシップ受け入れ	19
動脈形成に不可欠な遺伝子を発見/閉塞性睡眠時無呼吸症候群(OSAS)の	20
個別化治療に一步前進/看護学科同窓会開催報告	
レポート	21
メディア掲載情報/下ツ道/広告	22

October
2012

vol.42

奈良県立医科大学・同志社女子大学連携講座

医学部長 喜多 英二

同志社女子大学（京都府京田辺市）と本学の連携講座は、両大学間の「包括協定」に基づく学術交流の一つであります。この協定は、当時渉外・企画担当理事であられた吉岡現学長のご尽力により、2007年6月26日に締結されたものであります。両大学の教育・研究活動全般にわたる交流および連携を推進し、相互の教育・研究の一層の進展と、地域社会の発展に寄与することを目的としたものであります。この協定締結は、両大学が単独ではなしえなかった教育、研究、診療活動において新たな可能性を広げ、優れた人材の育成、独創性に富んだ共同研究などを推進し、その成果を広く社会に還元することを目指してのことです。

この協定の基、シンポジウムを毎年一回開催し、医師・薬剤師・看護師・栄養士等が夫々の立場から意見を出し合い、有意義な討論を行っております。また、同志社女子大学の音楽科の学生さんによる本学附属病院における院内コンサートも、年2~3回開催され患者さん方の心の癒しになり非常に喜ばれております。

第一回目の連携講座は、本年9月初旬に開催されました。この連携講座は、本学においては「地域基盤型医療教育コース コンソーシアム実習3」として位置づけ、医学だけでなく薬学や栄養学、さらには音楽療法と幅広い知識の習得と、同志社女子大学の学生及び教員との交流を深めることを目的としております。この連携講座は、医学・理工学（工学）の知識習得を目標とする早稲田大学との連携講座とは大きく異なるものであるため、コンソーシアム実習として両連携講座を選択することで、本学学生には奈良医大の中だけでは学べない幅広い最先端の知識を得ることが可能になります。今回担当下さった本学教員の方々には、厳しい残暑の中大変なご負担をおかけしましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今後も同志社女子大学との学術協定においては、「医学分野と薬学分野の共同研究」、栄養学と臨床医学だけでなく住居医学も取り込んだ「医食住」をキーワードとした共同研究、「医食同源」をキーワードとした栄養学と臨床医学との共同研究、さらには「音楽療法」の共同研究などの推進を図るべく、「奈良県立医科大学・同志社女子大学連携推進協議会」で協議し、具体化していく予定であります。

本学術協定を更に実りあるものにするために、教職員のご理解・ご協力をお願いすると同時に、学生諸君の積極的な参加を期待しております。

同志社女子大学との合同講義開催



同志社女子大学との連携事業の一環として、本年度、第1回目の連携講座を開催しました。この講座は、医科大学である本学と薬学部を持つ同志社女子大学が双方の強みを活かしたものであり、両大学の学生が受講しました。

同志社女子大学の京田辺キャンパスでは本学の教員9名による「医学概論」を、本学では同志社女子大学の教員15名による「健康科学概論」を9月4日～8日の間、実施しました。

「健康科学概論」の講義は、生薬学、創薬化学や医薬品安全性学等、薬学に関連したものから、音楽療法、環境ホルモンや社会福祉論等、健康科学に関連したものまで幅広いもので構成されており、参加した両学の30名の学生が受講しました。

特に本学の参加学生は、普段の授業では受講できない医学以外の幅広い知識を身に付けたいとの思いから参加を申し込んでいるものが多く、多彩な講義内容に熱心にメモをとっていました。

「医学概論」は両校の学生14名に対し、本学の教授が「外科学」「内科学」「糖尿病の生化学」「生理学」「疫学」「人体解剖学」「小児科学」「病理学」「微生物・感染免疫学」の講義を行いました。



明日香村と地域医療連携事業実施に関する協定を締結しました

本学と明日香村は、共同で『地域医療連携事業』を実施することとなり、平成24年7月23日に本学において、吉岡章理事長と明日香村森川裕一村長が出席して調印式を開催し、両者の間で本事業の実施に関する協定書を締結しました。

本協定は予防医学及び健康づくりの分野で連携することで、明日香村民の健康寿命の延伸、慢性疾患の減少及び医療費削減等を図り、医学・看護学の発展と健やかに安心して暮らせる村づくりを推進することを目的としています。なお、具体的な事業に取り組む際、必要に応じて双方の関係職員等で構成する全体協議会、実務担当者会議等を設置し、詳細を協議します。

具体的な事業の実施内容は下記のとおりです。

- 新たな健康診断システムの構築を通じた村民の健康意識の向上を図る事業（医学部医学科地域健康医学と村で実施）
- 認知症に対する正しい知識の普及と地域の見守り体制の構築を図るための各種教室等を通じた認知症予防対策事業（医学部看護学科精神看護学と村で実施）
- その他、上記2事業に関連する事業



協定を締結した森川村長（左）と吉岡理事長（右）

教授就任挨拶



泌尿器科学講座教授就任のご挨拶

泌尿器科学 教授 藤本 清秀 (ふじもと きよひで)

この度、平成24年8月1日付けで本学泌尿器科学講座教授に就任いたしました。これまでのご厚情に対しまして深く感謝を申し上げます。大変な重責に身の引き締まる思いであります。これまでの教室の伝統を継承し、教室の繁栄は言うまでもなく、皆様方と一緒に本学の発展に貢献してゆきたいと思っております。高齢社会となった日本の医療におきましては、今後も泌尿器悪性腫瘍、排尿障害、腎不全など泌尿器科領域の診療の需要は益々増大するものと考え、これらを診療と研究の3本柱としてプライマリケアから高度先進医療まで担ってまいりたいと考えております。昨今の日本の社会情勢は暗雲としておりますが、質実剛健を胸に刻み、明るい教育・診療・研究の姿勢を目指してまいりますので、どうぞ皆様方の厳しいご指導、ご鞭撻ならびに温かなご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



病理診断学講座教授就任のご挨拶

病理診断学 教授 大林 千穂 (おおばやし ちほ)

この度、病理診断学講座・病院病理部を担当させていただき、卒業以来30年ぶりに奈良医大の一員となりました。当講座は基礎系の旧第一病理学講座から臨床医学系講座として平成15年に移行し、野々村昭孝前教授がその第一走者として力走してこられました。平成20年に病理診断科は標榜科となり、今でこそ教授席を設ける大学が少なくありませんが、全国に先駆けた機構改変であり、その第二走者としてバトンを頂戴したことは栄誉であるとともに、重責に身の引き締まる思いがいたします。臨床各科の先生方とオーダリングの画面だけではなくface to faceで日常的に意思疎通をはかり、また学生に対しては基礎で学んだ病理学が実際の医療現場で重要な要の一つであることを知ってもらい、さらには縁の下での我々の仕事が患者さんに届くよう、教室員と力を合わせて取り組んでまいりますので、ご指導、ご支援をお願いいたします。



小児看護学教授就任のご挨拶

小児看護学 教授 川上 あずさ (かわかみ あずさ)

9月から看護学科でお世話になることになり、小児看護学を担当いたします、川上と申します。小児看護の目標は、子どもの健やかな成長・発達を支援することですが、そのためには、複雑・高度化する小児医療に対応できるよう、小児看護にも高度な専門化が求められています。また、多くの時間を家庭や地域で療養し、成長・発達する子どもの看護も重要です。さらには、災害時における小児看護も重要な課題であると認識しています。いずれの、どのような状況においても、子どもが持っている力が最大限発揮できるよう支援していきたいと考えています。そして、このことを大切にして、教育・研究に携わっていききたいと考えております。これまで、兵庫県内のみで勤務しておりました。不慣れなことばかりで、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、皆様方の温かなご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(財務企画課)

平成23年度

法人業務の実績に関する評価結果

平成19年4月の法人化に伴い、本学は中期計画（第1期は平成19～24年度）に基づいて実施した業務の実績について、毎年度、県の地方独立行政法人評価委員会による外部評価を受けています。

平成23年度の評価結果について9月12日に通知があり、全体としては「中期目標・中期計画の達成に向け、おおむね順調な進捗状況」とされ、特筆すべき事項として昨年度に引き続き当期純利益を計上したことが評価されました。

項目別では29項目（○で表示）が平成23年度の注目される取組として高く評価される一方、11項目（●で表示）が今後取り組むべき課題とされたところです。

本年度は第1期中期目標・中期計画の最終年度ですが、上記の課題とされた項目以外にも未達成の項目は相当数あるため、この評価結果も踏まえて、教職員全員で着実な達成に向けた取組みをお願いします。

評価結果の全文はホームページに掲載しています。

http://www.narmed-u.ac.jp/info/plan_evaluation/business.html

平成25年度 入試日程

(教育支援課)

医学部

学科	入試区分	募集定員	出願期間	試験日	合格者発表(予定)
医学科	推薦*1	38	平成24年12月11日(火) ～12月14日(金)	平成25年 2月2日(土) 2月3日(日)	平成25年 2月13日(水)
医学科	前期	22	平成25年1月28日(月) ～2月6日(水)	平成25年 2月25日(月) 2月26日(火)	平成25年 3月6日(水)
医学科	後期	53		平成25年 3月12日(火) 3月13日(水)	平成25年 3月21日(木)
看護学科	推薦*2	30	平成24年11月1日(木) ・11月2日(金)	平成24年 11月23日(金)	平成24年 12月11日(火)
	社会人	5			
看護学科	前期	40	平成25年1月28日(月) ～2月6日(水)	平成25年 2月25日(月) 2月26日(火)	平成25年 3月6日(水)
看護学科	後期*2	10		平成25年 3月12日(火)	平成25年 3月21日(木)

*1 医学科推薦入試は「緊急医師確保特別入学試験」(13名)と「地域枠入学試験」(25名)を実施します。

*2 看護学科の推薦入試と後期日程では地域枠のみを募集します。

詳しくはホームページで確認してください(<http://www.naramed-u.ac.jp/user/examinee.html>)

なお、看護学科の推薦・社会人入試募集要項は9月下旬から配布中です。

医学科推薦入試募集要項は10月下旬、その他の募集要項は11月下旬から配布予定です。

第66回 解剖慰霊祭が厳かに挙行されました

平成24年9月20日(木)午後3時から大講堂において、第66回解剖慰霊祭が執り行われました。系統解剖及び病理解剖に貴重なご遺体を提供していただいた方々のご遺族や、献体登録を申し出られています奈良医大白菊会会員、来賓の方々、教職員、学生等、合わせて約350名の方々が参列されました。

今年は新たに、系統解剖27柱、病理解剖30柱の計57柱の御霊を加えて、6043柱の御霊をお祀りさせていただきました。参列者全員の黙祷の後、学長の祭文奉読、学生を代表して医学科3年生総代の岸田勇人さんからの感謝文奉読、参列者の献花と続き、最後に学長からのお礼の挨拶により終了しました。

医師、看護師を志す者にとって解剖実習を通じ人体の構造を知ること極めて重要です。尊い意思を持ち、医学の発展と医学教育のために自らの体を捧げてくださった方々の崇高なるご遺志に改めて深い感謝の意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(研究推進課)

実験動物慰霊祭が厳かに挙行されました

実験動物慰霊祭を9月24日(月)に行いました。これは、実験動物の尊い生命に対し、哀悼の意を表すもので、毎年実施しています。

学長の祭文奉読後、多くの関係職員及び学生が献花を行いました。

私たち生命医学に携わる者は、動物の生命を尊重する必要がありますが、やむなく動物実験を必要と判断したときは、動物に対して博愛的な敬愛を払うという道徳上の義務を失うことなく、犠牲になる動物数の削減に努め、動物の生命から得られた貴重な情報を研究成果として広く社会に還元できるよう努めなければなりません。



オープンキャンパス2012を開催しました



8月4日(土)に医学科、5日(日)に看護学科のオープンキャンパスを開催しました。

医学科は約500名、看護学科は約400名と多数の方に参加いただきました。今年度は施設見学を事前予約制としたところ、受付開始からすぐに定員に達するなど、奈良医大オープンキャンパスの注目度と人気の高さは健在です。

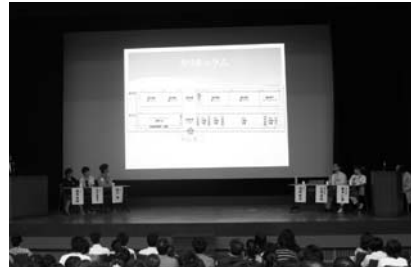
4日に第一解剖学の西教授による「顕微鏡で見る生きている細胞の世界」、5日に成人看護学の石澤教授による「看護における皮膚管理-褥瘡と失禁-」と題する模擬ミニ講義が行われ、参加者も興味深く聞き入り、入学したらこんな講義を受けたいという声が聞かれました。

先輩からのメッセージでは、在校生に加え、
本学附属病院の臨床研修医や看護師の卒業生に参加していただき、参加者は、受験や入学後の学生生活、そして卒業後の自分をイメージしながら、熱心に先輩たちの熱いメッセージに耳を傾けていました。

毎年盛況の施設見学も、少しでも多数の方に参加いただき、医療・看護の現場を見学してもらえるよう見学先を増やしました。5日の見学先の施設としては、今年には新たにメディカルパスセンターや病棟も見学させていただきました。メディカルパスセンターは2011年にオープンした新しい施設で、その内部を見学させていただきました。また、病棟では、現場で働く看護師の方から、看護師としての仕事やアドバイスなどをさせていただきました。

他には、本学が連携協定を結んでいる各大学のパネル展示や、栗田書店の協力による教科書展示コーナーなどを設け、担当者や学生が説明を行いました。

オープンキャンパスの開催に当たっては、学長、医学部長を始め、施設見学で対応いただいた教職員、運営の手伝い等をしてくれた学生ボランティアなど、多数の方々にご協力をいただき、無事に成功を収めることができました。皆様には厚く御礼を申し上げますとともに、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。



8月4日 先輩からのメッセージ



8月4日 施設見学(ノパリス)



8月5日 学生による相談コーナー



8月5日 施設見学(老年看護学実習室)

女子高生の医理系進路選択支援事業

「医理系の研究って、すっごくおもしろい！」



顕微鏡を覗くその先に女性研究者としての未来が見える。

8月4日(土)のオープンキャンパス実施に合わせて、未来の女性研究者の育成推進の一環として「医理系の研究って、すっごくおもしろい！」と題したイベントを実施しました。このイベントの目的は本学の教員、ボランティアの学生の指導のもと、医理系の研究を体験するとともに教員・学生と交流してもらうことで医理系に進学することが比較的少ない女子高校生の将来の進路選択を支援することです。このイベントには、定員(20人)を上回る応募があり、急遽参加者数を変更して対応しました。参加者は、基礎医学校舎4階の細菌学(地域健康医学、健康政策医学)実習室において、実験方法についてのオリエンテーションを受けた後、参加者自身の口の中にある菌をグラム染色して顕微鏡で観察し、そのスケッチで意見交換を行ったり、細菌学教室の水野講師の細菌に関するミニ講義を受けたり、ボランティアの学生さんたちと談笑したりして予定の2時間はあっという間に過ぎました。参加者からは「先生方や学生の方がとても話しやすい雰囲気

をつくってくださり、緊張せず楽しく実験ができた。」「細菌がとてもおもしろいものだと感じた。染色の流れの中で使う薬品の役目をもっと知りたい。」など好評な内容の意見が多数ありました。

実習終了後には喜多センター長から参加者それぞれの顔写真が入った「未来の女性研究者認定証」が贈られました。また、今回の事業にボランティアで協力いただいた学生さん9人にも「感謝状」が贈られ、会場は大いに盛り上がりました。

その後、大学隣接のなかよし保育園に移動して交流会も開催し、昼食をとりながら奈良医大の先輩方、先生方と意見交換する機会も設けました。

この事業は今回が第1回であり、2回目を10月28日(日)の大学祭に併せて実施する予定です。今回参加できなかった方も次回はぜひご参加ください。



参加者に贈られた認定証

コンサート実習2 (奈良医大・早大連携講座)が開催されました



今夏8月20日から23日まで、早稲田大学において、「先端放射線医療工学と生命科学」をテーマとして、早稲田大学・奈良県立医科大学連携講座が開催されました。これは、2008年12月に早稲田大学と本学が結んだ協定による連携事業の一つで、隔年で開催校を代えて実施しているものです。本学からは17名の学生が参加し、早稲田大学学生32名とともに西早稲田キャンパスで学びました。

講義は、本学から小林浩教授はじめ、ゲストスピーカーとしてご出講いただいた近畿大学生物理工学部の吉田久教授、奈良女子大学社会連携センターの梅田智広特任准教授、また

早稲田大学から、鷲尾方一教授、石山敦士教授、篠原邦夫客員教授、放射線医学総合研究所の野田耕司主任研究員がそれぞれ行いました。

このほか、早稲田大学先端生命医科学センター（TWIns）などの見学や、学生および教職員を交えた懇親会が催されるなど、両校学生の交流を深める貴重な機会となりました。

参加した学生からは、「総合大学の学生と接する機会が得られ、視野が広がった」「医学と異なる分野との交流の大切さを実感した」といった感想が寄せられました。

東日本大震災被災地の福島県で3県立医科大学生が ボランティア活動を行いました



学生14名（医学科6名、看護学科8名）は、平成24年8月19日（日）から24日（金）の間、和歌山県立医科大学の学生と合同で福島県を訪問し、ボランティア活動などを行いました。福島県と福島県立医大が共同で実施している県民健康管理調査支援や、南相馬市の仮設住宅で催されているサロンでのボランティア活動に参加、福島県立医大では同大災害医療総合学習センターと国立病院機構災害医療センターなどが主催した学生向け災害医療コースを受講し、福島医大、東京医科歯科大、筑波大の学生とも交流しました。福島県庁では県の担当者から福島県の復興除染作業等の施策について説明をうけました。

学生災害ボランティアバス復興支援活動に参加して

看護学科1年 小野乃后子

私は「未曾有の大震災と原発事故を経験し苦しんでいる方々がいる時代に生きる者として、何か力になりたい」という思いから、どのように力になれるのかを見つけるため、今回のボランティアに参加しました。実際に被災地の方々と会い、話をし、現状を見て知ったことで、震災と原発事故がもたらした被害の大きさを知り、震災から1年5か月たっても問題は山積していること、復興はまだまだ時間がかかることを知りました。活動を終え、今被災者がボランティアに求めているニーズは、継続的でかつ細やかな支援であると感じています。特に、話相手になることが求められているように感じました。また、ボランティアとして支援する対象は被災者だけではなく、現地で被災者を支援をしている人も含められることに気がきました。

震災で苦しんでいる人、また復興に向けて努力を続けている人のことを忘れず、支援を続けたいというのが活動を終えた私の強い思いです。震災は、福島県内でも風化しつつあります。何かイベントを起こし被災者支援を意識してもらったり、今回の活動で学んだことを積極的に周囲に伝えることで、震災とその支援について考える人を増やしていきたいと思います。

私たちは、今も苦しんでいる方々がいることを、忘れてはなりません。



ソフトテニス女子 優勝

～第64回西医体総合16位～

今年も西日本医科学生総合体育大会が開催されました。総合成績は16位でしたが、ソフトテニス女子が優勝し、バレーボール女子・水泳男子・空手道女子が上位の成績を取めました。また、個人戦では、水泳200mフリーリレーで、阪井諭史君、新美雄大君、白石祐基君、脇啓太君のチームが、50m自由形で阪井諭史君が、陸上の走り高跳びで服部貴憲君がそれぞれ1位になり、合気道有段の部で北辻航君が最優秀賞を獲得しました。

◆期 間：平成24年7月28日～8月17日
◆主 管：中国・四国ブロック

◆代表主管校：岡山大学
◆参加大学数：計44大学
◆競 技 数：22

競 技 名	【団体】	
	成 績	
硬式テニス	男	1回戦敗退
	女	ベスト8
ソフトテニス	男	ベスト16
	女	優勝
サッカー		2回戦敗退
準硬式野球		2回戦敗退
バスケットボール	男	1回戦敗退
	女	2回戦敗退
バレーボール	男	2回戦敗退
	女	準優勝
バドミントン	男	2回戦敗退
	女	ベスト16
弓道	男	18位
	女	14位
柔道		ベスト16
卓球	男	1回戦敗退
	女	2回戦敗退
陸上競技	男	11位
水泳	男	4位
空手道	男	ベスト8
	女	準優勝
剣道	男	ベスト8
	女	ベスト8
ハンドボール		予選敗退
ラグビー		1回戦引き分け(抽選負け)
ゴルフ		32位
総合		16位

競 技 名	【個人】種目成績	
水泳	男	阪井諭史、新美雄大 200mフリーリレー1位
		白石祐基、脇啓太
		阪井諭史 50m自由形1位 100m自由形2位
		新美雄大 50m自由形2位 100m自由形6位
バドミントン	男	安藤淳史 個人戦ダブルスベスト4 美波直岐
	女	喜多桃子 個人戦シングルベスト8 吉川千尋
	陸上	男
	女	高 由美 800m 3位
剣道	男	山田知佳 個人戦ベスト8
弓道	男	大崎 徹 優秀射技賞
合気道	男	北辻 航 有段の部、最優秀賞

『全員で掴んだ優勝』

ソフトテニス部

(主将：医学科4年 林 泰造、女子部代表：医学科4年 吉村鈴加)
去る8月9、10、11日に第64回西医体ソフトテニス部門競技が神鍋高原ローンテニスコートで開催され、私たちソフトテニス部は女子団体戦において優勝という結果を残すことができました。

ソフトテニスという競技は他の競技に比べマイナーなスポーツであるため部員数が非常に少ない時期があったり、それゆえ大会で結果を残せず苦しんだ時期もありましたが、最近では男女共に部員数も増え、更に経験者も増えて、少しずつ大会で良い成績も残せるようになり、益々活気ある部活となってきました。

それはOB・OGの先生方をはじめとする多くの方々がこの部を築いてこられた結果であり、今でもお忙しい中も御指導して下さったり御支援して下さったりと、この部は本当にたくさんの方々の力によって成り立っているものだと感じています。

私たち部員もその期待に応えるべく日々練習に励んできました。西医体本番では、こうしてみんなで努力してきたことが自分達の自信となり、結束力も強まり、そして応援してくれる部員全員の存在が大きな力となっていました。

今回優勝という最高の結果を報告することができ、本当に嬉しく思います。

現在、ソフトテニス部は幹部も交代し新体制のもと、再び練習に励んでいます。辛い日々があってもその努力はいつか実を結ぶことを信じて、気を抜かず来年も男女共により一層の好成績を残せるように努めていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

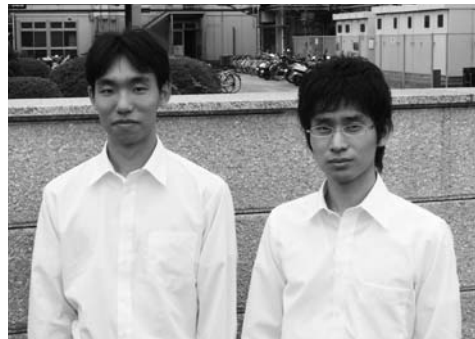


研究医養成コースがスタートしました

基礎研究は医学の発展に必要不可欠でありながら、研究医の不足が、全国的に大きな課題となっています。各大学は研究医養成に向けた取り組みを始めていますが、本学においても今年度、「研究医養成コース」を創設し、将来の本学の研究分野を担う人材の育成を行うことになりました。

選抜試験により、強い研究意欲と理工系の幅広い知識を持つ学生を医学科の2年生後期に迎え入れ、入学後は学部・大学院の一貫教育を通して、基礎医学・社会医学の分野におけるトップレベルの医学研究者・医学教育者を育成していくこととなります。

今回、1期生として、早稲田大学先進理工学部から朝比奈諒君と三須政康君の2名が入学し、この秋から、医学科2年生の仲間と一緒に勉学に励むこととなります。



左から 朝比奈君、三須君

●朝比奈 諒 (あさひな りょう) 君

奈良県立医科大学の初めての試みである研究医養成プログラムの第一期生として、このような機会を与えられたことをありがたく思っています。関西圏での生活は初めてということもあり、まだ右も左も分からない状態ですが、これからの大学生活に大きく胸を躍らせています。多くの期待を背負いプレッシャーも小さくありませんが、それに応えられるよう日々誠実に勉学に励みたいと思います。幅広い知識を身につけ、どのような問題にも積極的に挑戦できる熱意を持った研究者を目指します。皆様方のご指導を宜しくお願いいたします。

●三須 政康 (みす まさやす) 君

基礎研究医になりたいという希望を抱き、秋学期から編入して参りました。『「人の人たるゆえん」とは、己が一途で世を開き、^(ひんなん)艱難我をば玉にして、歴史の歩みを進めたる。』という言葉があるように、この先困難なことに何度もぶつかるとは思いますが、弛まぬ努力を重ね、医療、社会に貢献できる研究者になれるよう精進していく所存です。大きな決意を抱きつつも今は未だ「知識」、「思想」、「誇り」等々欠けているものばかりです。先生や先輩、そして同期の方々、厳しくも温かなご指導のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

(平成24年度白檀生祭実行委員会)

か し ぶ 白檀生祭 今年のテーマは 「そうだ！奈良医大に行こう」

10/26^金～28^日まで

いよいよ、年に一度の大学祭の季節がやってきました。今年は“そうだ！奈良医大に行こう”をテーマに、たくさんイベントを開催致します。

主なイベントをご紹介します。

○シンポジウム 10月27日(土) 於 大講堂

タイトル：明日の子どもたちの笑顔のために～スーダン・東日本大震災での活動～
講師：川原尚行氏(NPO法人ロシナンテス)

○ステージ企画 10月27日(土)・28日(日) 於 野外メインステージ

各クラブによるライブ・面白イベント等目白押しです！！

○模擬店 10月27日(土)・28日(日) 於 一般教育校舎南側

○メインイベント 10月28日(日) 於 体育館

「中村蒼トークショー」
入場料：S席1500円 A席1000円

○緊急医療支援チャリティーバザー 10月27日(土)・28日(日) 於 大講堂前

○献血 10月28日(日) 於 駐輪場

白檀生祭の運営にあたっては、教職員の方々や同窓会の多大なるご援助をいただいております。この場をおかりして御礼申し上げますとともに、今後もよりよい白檀生祭を目指してまいりますので、何卒ご協力をお願いします。

皆さまのお越しを心よりお待ちしております。



中村蒼さん

本学の学生は、勉強だけをしているわけではありません。

多くの学生は、文化系13部、体育系24部のうちのいずれかのクラブに所属しています。そして、心身を鍛え、交友を深め、青春を謳歌しています。

さて第10回のクラブ紹介は、ラグビー部とダンス部です。



ラグビー部

「one for all, all for one」

部員:28名(選手・マネージャー)

顧問:田中康仁(整形外科学教授)

主将:前阪郁賢(4年)

活動内容:ラグビー

練習日:火、木、土曜日 午後5時～

こんにちは。私たちラグビー部は、週に3回医大グラウンドで練習しています。競技人数15人のラグビーにおいて現在部員数は20人を下回り、大変苦しい状況ですが、部員全員が西医体優勝に向けて一丸となって日々練習に取り組んでいます。また、OBやOG方々の御指導御支援も受け、日々感謝しております。

ラグビーという競技は、15人でするスポーツなので、一人一人が全力を出さなくては勝つことができません。また、一人がミスをするると他の全員がそのミスをカバーします。一人はみんなのために、みんなは一人のために「one for all, all for one」という言葉はまさにラグビーにおいてとても大切なことです。またラグビーにはノーサイドの精神があります。これは試合が終わり、ノーサイドの笛がなると、相手チームは敵ではなくなり、お互いを称えあいます。これはラグビーだけでなく日常生活でもとても大切なことです。

私たちは試合に勝つことはもちろんですが、ラグビーを通して医師に相応しい人間性を形成することも目標とし、日々切磋琢磨しています。

ラグビー部は奈良医大でもっとも元気な部活動です。是非一度、ホームページ (<http://nmurugbyclub.jimdo.com>) をご覧になってください。



ダンス部

「love,peace,unity,having fun」

部員:15名

部長:政木明子

活動内容:ダンス練習

練習日:不定期

ダンス部は復活を目指して新しく活動を始めている部活です。一時期活動が低下していましたが、以前「PASSION」として活動していたのを知っている方もおられるかもしれません。現在はその「PASSION」を受け継いで、医学科・看護科合わせて3年生6人、2年生5人、1年生4人でお昼休みを中心に放課後にも集まれる人で練習しています。

ダンスと言っても色々なジャンルがありますが、奈良医大ダンス部では部員それぞれの好みに合わせてHIP HOP、LOCK、JAZZ、コピーなど様々なジャンルに挑戦しています。オリジナルの作品はみんなで意見を出し合って楽しく作り、1年で最も大きなイベントとなる学祭にむけて、講堂の2階や体育館の前で練習しています。学祭での発表の最後には部員全員で1曲踊りお互いの交友をさらに深めています。この最後の1曲が踊っている私たちにとって特に楽しいものであり、見に来て下さった方にも1番楽しんで頂けるものではないかと思えます。

発表の場は現在まだ学祭や部活紹介くらいしかありませんが、ダンス部の発表会や、もっと上達してコンテストなどにも参加することを目標にこれから一丸となって「音」を体で表現することを楽しみながら頑張っていきます。

ダンスが好きな方や興味がある方は学年、学科を問わずいつでも新しい仲間を募集していますので気軽に声をかけて頂けると嬉しいです。

また、活動していくなかでダンスの大切な要素であるLove、Peace、Unity、Having funの精神を多くの人に伝えていければ幸いです。

連載 電子ジャーナルを使いこなそう! 第7回 メテオ社「メディカルオンライン」

今回はメテオ社の「メディカルオンライン (以下MO)」をご紹介します。

これまでは、海外の電子ジャーナルを紹介してきましたが、MOは国内の約900の商業誌および学会誌の全文が閲覧可能なデータベースです。昨年秋に大幅にリニューアルされて、文献データベースのほか、「くすり」データベースおよび「プロダクト」データベース(ベータ版)が追加されて、医薬品や医療機器等に関する情報も提供されています。

MOトップページ (<http://mol.medicalonline.jp/library/>) を開きますと、基本検索画面が表示されます(図1)。画面上部には「キーワード検索」、「(雑誌) タイトルで探す」、「分野で探す」および「(配信学会・出版社で探す)」の4種類のメニューがありますので、用途に合わせて選んでいただけます。MOに掲載の全文は、基本的にはPDFファイルで提供されていますが、雑誌によっては最新刊から数ヶ月間はアブストラクトのみであったり、全文であってもFAX送信であったりしますので確認が必要です。FAX送信の場合は、平日9時から18時までの申込でしたら当日中、それ以降なら翌営業日に送信されます。ご自宅や医局等のFAXを指定できます。

一方、医中誌Webから文献を探すときに検索結果にMO掲載文献がある場合、アイコンが表示されます(図2)。アイコンは2種類あり、アイコンの右下に「PDF」あるいは「FAX」と書かれています。「PDF」の場合は、直接PDFファイルをダウンロードできますが、「FAX」の場合は、FAX送信の申込画面が表示されます。

MOは手軽にPDFファイルがダウンロードできますが、短時間に大量にダウンロードされると、全学的に利用停止となることもありますので、アブストラクトで内容をご確認の上、必要なものだけをダウンロードしていただくようご協力をお願いします。



図1



図2

(研究推進課)

医療倫理講習会を開催しました

9月13日(木) 医療倫理講習会を開催しました。

この講習会は、「臨床研究に関する倫理指針」に規定される“研究者は、臨床研究の実施に先立ち、臨床研究に関する倫理その他臨床研究の実施に必要な知識についての講演その他必要な教育を受けなければならない。”の一環として開催いたしました。

今後毎年1~2回程度開催し、本学研究者の倫理的観点の更なる向上につなげていきたいとします。

また、医の倫理委員会に審査申請を行う場合、受講歴を記載する必要がありますので、次回以降受講していただきますようお願いいたします。

講師：群馬大学大学院医学系研究科
医学哲学・倫理学分野 教授 服部 健 司
「医療倫理をやわらかく考える」

※ 当該指針は下記URLからダウンロードできます。

<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/index.html>



「医の倫理委員会」からお知らせ

○ 医の倫理委員会開催月日 原則として偶数月の第3月曜日 13:30~

※ 審査申請書の提出は、事前に研究推進課にご連絡いただき、提出してください。

公開講座

平成24年度前期 「くらしと医学」を開催しました



吉岡学長あいさつ

24年度前期の公開講座を、9月8日（土）に奈良県橿原文化会館 大ホールにて開催しました。

平成6年度から始まったこの講座も、今回で29回目となり、今回の会場である橿原文化会館での開催も11回目となりました。

当日は、昨年度を大きく上回る、約700名と多くの聴講者を得て次のとおり進められました。

◇吉岡学長あいさつ

◇講演

①田中 康仁教授（整形外科学）

「寝たきりにならないために～整形外科からのアプローチ～」

（座長：赤井 靖宏准教授）

②赤井 靖宏准教授（臨床研修センター）

「健康・長寿の秘訣は腎臓にあり～健康に生きる方法を伝授します～」

（座長：嶋 緑倫教授）

③嶋 緑倫教授（小児科学）

「こどもの健康を守るために」

（座長：赤井 靖宏准教授）



講演の様子

聴講者はメモを取るなど、熱心に聞いていました。また、日ごろの悩みなど、多くの質問もありましたが、演者の適切な回答に納得していました。

公開講座は、本学の地域貢献の一環として、「くらしと医学」をテーマに、広く県民の方に、医学・看護学の知識を解りやすく解説し、日々の暮らしに役立てていただくことを目的としています。24年度後期の予定は下記のとおりです。

～次回公開講座の予定～

◆日時：平成25年2月16日（土）13：00～15：30

◆会場：なら100年会館 大ホール

◆講演：①入江安子講師（公衆衛生看護学）「コミュニティレジリエンス～地域の“ちから”の発見～」（座長：城島哲子教授）

②國安弘基教授（分子病理学）「食事とがん～大腸がんの話～」（座長：車谷典男教授）

③岸本年史教授（精神医学）「防ぎたいうつ病、認知症」（座長：國安 弘基教授）



田中教授



赤井准教授



嶋教授

奈良県教職員のための夏の公開講座を実施しました

奈良県教育委員会では、夏休みを中心とする「長期休業期間等」を有効活用して、県内の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教職員の資質や能力の向上等を目的とした研修の充実・強化が進められています。

本学では社会との連携を推進するという趣旨から、平成15年度より各教室のご協力を得て、「教職員に対する夏の公開講座」を開催してきたところです。

今年度も、母性看護学 中西准教授、先端医学研究機構 RI実験施設 森研究教授、物理学 平井教授、内科学第三講座 福井教授のご協力をいただき、下記のとおり開催いたしました。

受講対象：県内の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教職員

日時・内容・講師等：

①7月24日（火）10：00～11：30

「女性生き生き講座－更年期を元気に過ごしましょう－」 母性看護学 准教授 中西 伸子

②7月24日（火）15：00～16：30

「放射線の危険性を判断する基準について考える」 先端医学研究機構 RI実験施設 研究教授 森 俊雄

③8月2日（木）10：00～11：30

「放射線の正体」 物理学 教授 平井 國友

④8月2日（木）15：00～16：00

「肝臓の機能と障害：沈黙の臓器とどうつき合うか」 内科学第三講座 教授 福井 博

産学官連携だより

③Patent Wars

今回は、特許をめぐる企業間の攻防について述べさせていただきます。

特許権は、一定期間（日本では出願から20年間）排他的独占権を与えるもので、非常に強力な権利です。特許権又はライセンスを受けていない者が、その特許権を使った製品の販売等を行っていると考えられると、その者に対して特許権者は製品の販売差し止め、損害賠償請求を行うことができます。請求された側は、対象とされる製品が「特許権の侵害」に当たらないこと又は「特許権が無効」であることを主張し、特許権者からの請求を回避しようとしています。最終的には、裁判になりますが、そこに至るまでには、企業の経営判断も絡んで様々な攻防が繰り広げられます。最近では、新聞紙上でアップルとサムスンの特許権侵害をめぐる訴訟合戦のニュースがよく取り上げられています。

少し前になりますが、越後製菓が“サトウの切り餅”で知られる佐藤食品工業を相手に切り餅の製造販売の差し止めと約14億8500万円の損害賠償を求めた裁判の判決が話題になりました。我々が日常において口にする切り餅の特許ということで、多くのマスコミでも取り上げられましたのでご記憶の方も多いのではないのでしょうか。この裁判は、越後製菓の特許（特許第4111382号）が侵害されたというもので、特許の権利範囲を示す請求項1は「焼き網に載置して焼き上げて食する輪郭形状が方形の小片餅体である切餅の載置底面又は平坦上面ではなくこの小片餅体の上側表面部（2）の立直側面である側周表面（2A）に、この立直側面に沿う方向を周方向としてこの周方向に長さを有する一もしくは複数の切り込み部（3）又は溝部を設け、この切り込み部（3）又は溝部は、この立直側面に沿う方向を周方向としてこの周方向に一周連続させて角環状としたもしくは前記立直側面である側周表面（2A）に対向二側面に形成した切り込み部（3）又は溝部として、焼き上げるに際して前記切り込み部（3）又は溝部の上側が下側に対して持ち上がり、最中やサンドウィッチのように上下の焼板状部の間に膨化した中身がサンドされている状態に膨化変形することで膨化による外部への噴き出しを抑制するように構成したことを特徴とする餅。」と記載されています。紙面の都合で図面は省略しますが、四角い餅の側面が（2A）と切り込みが（3）と図示されています。特許に関わりの少ない人には、切り餅の側面に切り込みを入れることが特許権として成立していることが驚きだと思います。それに加えて、上記の請求項の記載が、側面に切り込みを入れるだけなのに不可解極まりない表現であることに対して日常的に論文を記述されている研究者の方は疑問をお感じのことと思います。

しかし、形のない技術の特許権として明文化し、その特許権で最終的には訴訟することになりますので、裁判で争える特許権として表現しなければならず、切り餅であっても厳格な（＝穴のない）表現を必要とします。実際の裁判では、下線部の「載置底面又は平坦上面ではなく」をめぐる、載置底面又は平坦上面には切り込みを設けないと解釈するべきか、「側周表面」であることを明確にするための記載だと解釈するのが争われました。知財高裁では、「載置底面又は平坦上面ではなく」の後に句点がないことから直後の「側周表面」を修飾しており、「側周表面」であることを明確にするための記載であると判断しています。つまり句点（、）の有無で解釈が異なると判断したのです。

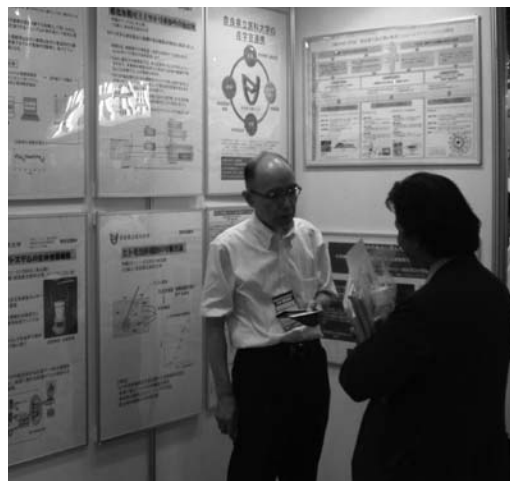
特許をめぐる企業間の攻防は、句点の有無が勝敗を決するような、まさに生き馬の目を抜く世界です。企業の知財部の方からは、大学の特許は使い物にならないという声をよく聞きますが、それは権利行使ができない又は権利行使しようとしても相手方に容易に逃られる可能性のある特許が多いということを意味していると思われます。大学が研究成果の特許権として確保する目的は、企業に活用してもらうことにあります。その際に、使い物にならないとして活用してもらえなければ意味がありません。企業が行っている特許をめぐる攻防を理解したうえで、大学も知財活動を行っていかねばならないと考えます。

～研究成果・シーズ出展 報告～

●インターフェックスジャパン

インターフェックスジャパンとは、医薬品・化粧品・洗剤の研究開発・製造技術の国際展示会で、去る6/27～29に東京ビッグサイトで開催されました。奈良県企業立地推進課から、奈良県製薬協同組合と共同で出展を行うに際し、本学での産学官連携に関する事例の展示要請があり、

- 「本学の産学官連携」
 - 「無意識生体計測&検査によるヘルスケアシステムの開発」
 - 「泌尿器ヘルスケアシステムの生体情報機器」
 - 「胎児の心電計測による胎児心拍数計測」
 - 「急性心筋梗塞に対する血栓溶解のための新たなドラッグ・デリバリー・システム (DDS)」
 - 「老化を防ぐ!! ヤドリギからの抽出物」「ヒト毛包幹細胞の培養方法」
 - 「クモの糸から学んだ新素材」
- のポスターを展示・PRしてまいりました。



●けいはんなビジネスメッセ

7月19日にけいはんな学研都市において、けいはんな地域における企業や研究機関が研究成果の事業化や連携、取引を促す目的で「けいはんなビジネスメッセ」が開催されました。今年で7回目の開催となり、奈良県、京都府、大阪府などから106の企業や大学、団体が出展する中、本学も研究成果を出展するとともに、他の出展を行っている企業等との交流・情報交換を行ってまいりました。その中で、南都銀行バリュー開発部のご担当者との名刺交換を行い、産学官連携の交流を進めているところです。具体的には、南都銀行が主催する「〈ナント〉元気企業マッチングフェア2012」(11/21(水)開催 マイドーム大阪)に本学の出展ブースを無料提供いただけることとなり、本学のPR・産業界との交流を進めてまいります。



福建医科大学代表団が本学を訪問されました



後列：左より東講師、喜多副学長
前列：左より山下法人企画部長、吉岡学長、Chen副学長、福建医科大学の代表団の皆さん

7月5日(木)、本学と学術交流協定を締結している中国の福建医科大学から、Chen副学長ほか代表団が本学を訪問されました。今回の訪問は、福建医科大学が日本の協定締結校との学術交流協定の発展を図るため実現したものです。

学長表敬訪問では、2014年に期限となる現在の学術交流協定の更新について確認され、両校の医学教育の現状について活発に意見交換が行われました。

引き続き実施された基礎医学校舎と総合研究棟の見学では、森研究教授(ラジオアイソトープ実験施設)、杉浦准教授(組換えDNA実験施設)、久保准教授(動物実験施設)の説明に熱心に耳を傾けておられました。今後益々の両校の発展を祈念しています。

総合案内付近がリニューアルされます

総合受付、総合案内、玄関ホール、待合ホール周辺を改修致します。

「アメニティ向上と患者さんへのわかりやすい案内」を合言葉に、関係者と調整を行い、設計を進めてきました。

仮設受付で開業しながら工事を行いますので、何かとご不便をお掛けしますが、ご理解とご協力をお願いします。

なお、工事は本年10月から来年3月までを予定しております。



(仮) 総合受付完成予想図



(仮) 総合案内完成予想図

(病院管理課)

「安全第一」の浸透 — 針刺し事故防止のために —

健康管理センター 長 古西 満

工事現場や工場の中などで、「安全第一」と書いた看板が掲げられているのを見たことはありませんか。職場には多くの危険が存在し、安全や健康が脅かされているからです。それは工事現場や工場内だけの話ではなく、病院の中にも存在します。たとえば、奈良県立医科大学附属病院では平成23年度に針刺し事故(血液・体液曝露事故)による公務災害39件と労働災害24件の申請が行われています(知らなかったでしょ)。感染制御チーム (ICT) を中心にいろいろな対策をとってきていますが、針刺し事故件数が減る様子はありません。

なぜ針刺し事故は起きているのでしょうか。その理由の一つは、不安全行動を容易にとってしまう人間の行動特性にあります。これは、「ゲシュタルトの法則」と呼ばれる心理学の法則で、「人間の行動は最短距離をとる傾向がある」というものです。ちょっとわかりにくいですが、たとえば、横断歩道を渡る時に目的地が横断歩道の右方向にあると、横断歩道を渡ってから右に曲がって目的地に行かずに、道路を右方向に斜め横断して目的地に向かうような行動をしてしまいやすいということです。思い当たることはありませんか。急いでいる時、病室で採血をするのに廃棄容器を持たずに行ったり、安全装置付きの翼状針なのに作動させずに抜針をしたりなど、あるかもしれませんね。このような行動特性があることを意識して医療行為を行うことや対策を立てることが重要であると考えます。

私が産業医として初めて工場の安全衛生委員会に出席した時、「KYが重要だ」とか「KYをしたのか」という発言が多くありました。その時は勉強不足で、「KY」と聞いても「空気読めない」しか頭に浮かばず、「空気読めな、あかんちゃうの?」と思っていました。でも後で、「KY」というのは「危険予知」の略だということを知りました。会議で変な発言をしなくて本当に良かったと思っています。ところで、針刺し事故防止にも「KY」は大切になります。近くに作業者がいる時に、鋭利な機材を持ったまま声かけをせずに急に動いたりすると機材を刺してしまうことがあります。あるいは、廃棄容器の投入口に手を近づける時に、中の針先が近くに出ているかもしれないと考えずに不用意に手を伸ばして針刺しをしてしまうこともあります。日頃から「KY (危険予知の方ですよ)」を心がけて下さい。

当院でも「安全第一」の精神が広く、深く浸透することを信じています。

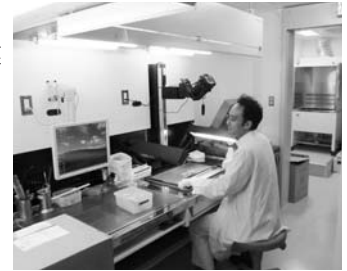
病院病理部が改修されました



病院病理部 技師長 内地 敬男

病院病理部では、日々ホルムアルデヒド等の有害物質を取り扱っていますが、設備の老朽化等の影響で、ホルムアルデヒドやキシレンをはじめとする有機溶媒の濃度が高く、ホルムアルデヒドについては管理濃度(0.1ppm以下)を超えているような状況で作業を行ってきました。

そこで職場環境改善のため、根本的に検査室全体を改修する事業が、23年度予算化されました。既設の建物を大規模に改修するというものであり、当初の予定より大幅に遅れましたが、7月中旬に完成し、7月17日から新しい検査室で業務を行っています。管理された空調と有毒ガスをその場で吸引除去する作業台など最新の設備が導入され、法的規制をクリアし、安全で快適な職場となっています。



この改修の実現にご尽力いただきました方々に、この場をお借りしお礼申し上げます。ありがとうございました。

臨床研修センターにイベント表示盤を設置しました

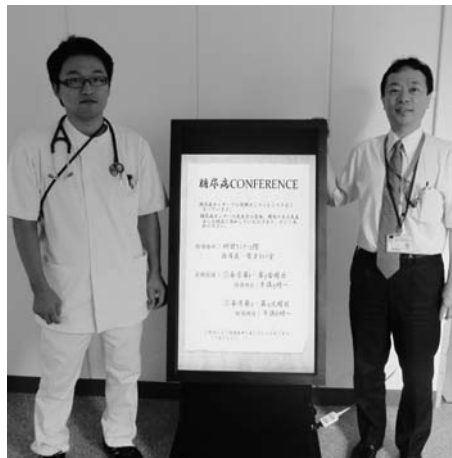
卒後臨床研修センター ディレクター 赤井 靖宏

本年7月から卒後臨床研修センターにイベント表示盤を設置しました。この表示盤にはその日あるいは近日中に研修センターで開催される講演会やカンファレンスを皆様にお知らせするためのものです。

以前、欧米の病院や研究施設を訪れたときに、その日に施設内で開催されるカンファレンスや講演会を表示する電子表示盤を目にしました。施設内のスタッフの誰が参加可能な会か等も表示され、自由参加の会であれば主催部署以外のスタッフも参加できます。このような表示盤を通じて、奈良医大でも医局や職種の枠を超えた皆さんが集う勉強会などのイベントが多くなればと思っています。

卒後臨床研修センターは本年4月からメイン機能が2階に移り、1階はカンファレンス室として利用されています。各診療科のカンファレンス、院内剖検例のCPC、看護部のイベント、患者会、様々のワークショップ、学生主催のカンファレンスや勉強会、製薬企業主催のWebカンファレンスなどに、幅広く活用いただいています。基本的には、医学部学生や、研修医を含む若手医師・看護師の教育活動に役立つような会に利用いただくようにしています。

このような各種イベントの広報手段としてイベント表示盤は大変役に立っているようです。特に、自由参加の講演会などでは、以前に比べて参加者が明らかに増加しています。表示盤は研究室への通路に設置していますので、ぜひご覧ください。ちなみに、大阪梅田のThe Hilton Plaza入り口に同じ表示盤が設置されていることに最近気づきました。その日以来、奈良医大の表示盤もより輝いて見えます(笑)。



高度医療技術修得者認定 今年度も2名!

本院では、医療技術の進歩による医療機器の多様化・高度化に対応しうる臨床工学技士の専門性を周術期チーム医療に活かすため、臨床工学技士の麻酔アシスタント業務に関する高度医療技術修得者の養成を全国に先駆け独自に行っています。

平成22年度から養成が始まり、昨年度の2名に続き、今年度も2名(塩田隆技師、杉田匠技師)が1年間の研修プログラムを修了し、9月3日、古家病院長から両名に認定証が交付されました。周術期におけるチーム医療を担う一員として、活躍が期待されています。



(病院管理課)

中学生が本院の医師・看護師にインタビュー!

8月10日、16日、20日の3日間、夏休みの課外学習として、智辯学園奈良カレッジ(香芝市)の生徒30名が本学附属病院に来院し、医師、看護師に「仕事人インタビュー」を行いました。

これは、同校が「仕事観」「社会貢献の意志」を養うため、現中学3年生の生徒達の将来の志望職種により、現在社会で活躍する仕事人にインタビューを実施するというもので、本院でも、8人の医師、2人の看護師に対応いただきました。

医師、看護師という職業の人達が、具体的にどのような仕事をしているのか、また、どのような資質を必要と



インタビューの様子

されているのか、その職業観を養うために、文献・資料ではつかめないところを、直接質問を行い、医療の実際に触れる話を聞いて学んでいました。

内科、外科、精神科、耳鼻咽喉科、救急科の各担当医師、及び看護師の方々は、生徒達の専門的な質問に感心をしながらも自らの体験談を語るなど、熱心に応じていただきました。

生徒達も大変満足そうで、将来の医師、看護師を目指して頑張ろうという意気込みが感じられました。

(総務課)

ちびっこポリス大活躍!!

～なかよし保育園園児たちが秋の交通安全運動に参加しました～



みんな頑張りました!

9月26日、なかよし保育園の3～5歳児6名がちびっこポリスになり、秋の交通安全運動に参加しました。

榎原市長、榎原警察署長等の前で、元気いっぱい交通安全宣言をし、運転中の皆さん一人一人に「安全運転よろしくお願いします。」と、大きな声で呼びかけのお手伝いもしました。

「おまわりさんみたい!」「うれしい!」「カッコイイ!」と、大喜びしている園児の姿はとても微笑ましく、とても和やかな交通

安全運動になりました。

今回、安全運動に参加したことで、園児たちにとっては1つ社会勉強になり、ひと回り大きくなったように思います。

今後もなかよし保育園では、園児たちが地域の方々と交流し、一緒に活動する機会をつくっていききたいと思います。



理事長と一緒に、「敬礼!!」

看護教育講師制度がスタートしました

看護教育講師の設置について

看護学科長 飯田 順三

看護教育講師という制度は、附属病院看護部・看護学科連携ワーキング会議の中で発案されたものです。この会議は学部学生に対する実習を含めた教育、大学院生の教育・研究、卒前・卒後の一貫した教育・研修、附属病院への就職促進、看護学科教員と看護部との共同研修・研究などにおいて、看護部と看護学科の有機的な連携が必要であるとの認識のもとに平成22年10月に立ち上げられました。

この会議では、看護部・看護学科との共同研究や共催講演会などを行ってきましたが、学生教育や人事交流という面からも病院看護部の優秀な看護師に臨床的な視点で看護学科の教育を支援してもらう制度を作ることになり、看護教育講師が設置されました。看護教育講師は臨床経験5年以上で、人格的に優れ、臨床能力及び教育能力が高いと認められた者が看護部長の推薦に基づき学長より付与されます。看護学科の臨床実習や実習指導者への指導、看護学科での講義や演習への参画が職務となります。初年度は6名の看護教育講師が誕生しました。この制度を始めとして、看護部と看護学科の人事交流が活発化し、より親密な連携がなされ、学生の附属病院への就職が推進されることを願っています。

副院長兼看護部長 大名 美記子

病院が優れた看護師を採用することは、実習で学生を受け入れ育てることから始まると言われていています。本学看護学科学生の附属病院内実習においても、看護部と看護学科が連携し、実習、講義の場における卒前・卒後教育指導体制の充実を図ることを目的に看護教育講師が設置されました。付与する期間は1年以内で、期間の更新を妨げないとして、今年度は6名の優秀な看護師が選考基準を満たしその称号を手に入れました。看護学科の講義や演習、臨床実習指導者への支援・指導など看護学科教員と協働して職務を行うこととなりますが、看護教育講師の称号を誇りに、附属病院と看護学科との連携の要として活躍されることを期待します。

今年度は6名の方に称号が付与されました。



●精神医療センター 看護主任 金子 匡伸

今年の8月より、看護教育講師として任命されました。現在は、精神医療センターで勤務をしております。精神科での仕事は15年8ヶ月になりますが、まだまだ悪戦苦闘しながら看護業務に励んでいる次第です。

まだ、看護教育講師として何をすべきか手探り状態であります。しかし目下のところは、スタッフの育成および看護学生へのアドバイザーとしてあり続けていこうと思っておりますので、これからも宜しくお願い致します。



●NICU 臨床実習指導者 大西 英子

臨床実習指導者として三年目をむかえ、教育講師の任命をうけました。これから看護師を目指す学生さんに、現場の看護のすばらしさと厳しさをこれまで以上に伝えていきたいと考えています。そして、当院の看護を少しでも知っていただき、この病院で看護師として働きたいと思ってもらえるような働きかけができればと思います。よろしく申し上げます。



●B病棟7階 臨床実習指導者 田中 奈都

この度は、看護教育講師の称号を頂き喜びと緊張を感じています。昨年度から奈良県立医科大学の看護学科との連携で、学生と共に講義や演習に参加させて頂き、現在の学生の現状を知ることが出来ました。それは自分にとって、とても良い経験でした。今まで病院実習でしか接することがなかった学生との交流や、学生の学習や演習状況を実際に見ることで、知識の豊かさや新しい演習方法を実感しました。今後の学生指導において、学生の特性を活かし、楽しく実習してもらえるような環境を作っていきたいと思っております。



●B病棟5階 臨床実習指導者 山内 美智子

この度、看護教育講師の称号を頂きました。平成23年度から実習指導者として、学生指導を担う役割を与えて頂き、新人指導や看護学科の演習に関わらせて頂きました。今回、このことが、このような形で認めていただけたことを大変うれしく思っています。これからも、後輩育成に微力ながら尽力していきたいと思っております。有難うございました。



●中央手術部 臨床実習指導者 船田 佳予子

手術室は専門性の高い分野です。意識のある患者さんとの関わりは時間的に少ないですが、その中でも手術室看護師として「患者さんのための看護を行う」「医師やコメディカルと連携したチーム医療を行っている」という思いが伝わる実習指導をめざしています。手術室での実習は、患者さんにとっても実習生にとっても、特に緊張感の高い環境です。実習生が、術中看護について学びやすい環境をスタッフ全員で提供したいと考えています。



●集中治療部 臨床実習指導者 扇田 百合

看護教育講師として、学生の教育に携わることを光栄に思うとともに責任の重大さを感じています。臨床実習では、不安に思いながら看護をする学生に、患者さんのことを多面的に考えることのできる環境を作ることが重要だと感じています。病棟間での情報交換を密に行い、周術期における看護を効果的に学べるよう支援したいです。

また、大学での教育内容や現在の学生像を学び、新人教育に活かすことで、質の高い看護を提供できるように努めたいと思っております。

活躍する専門・認定看護師

●認定看護管理者 (Certified Nurse Administrator)

認定看護管理者制度とは、看護管理者の資質と看護の水準の維持及び向上に寄与することにより健康医療福祉に貢献することを目的とした看護管理者育成制度です。

第16回認定看護管理者審査に510名が受験し、合格者427名が認定看護管理者として新たに認定されました。認定看護管理者総数は1,734名になり、奈良県では21名の認定看護管理者がいます。

今年度、新たに下記の3名が認定されました！！

看護副部長 石川 しのぶ



看護管理者として必要なスキルは、ビジョンの策定、概念化能力、意思決定、コミュニケーション能力です。私のモットーは「わきあいあい」です。人間関係を重視してきました。患者さんの生活をきちんと見て、患者さんの視点で、患者さんに喜んでいただけるような、患者さんのために何でも言い合え、新しい看護サービスを創造できる組織になれるよう皆様の意見を取り上げ働きやすい職場を目指します。

最近、脳に関する本で「やりはじめないとやる気は起こらない」ということが書かれていました。とにかく「やり始める」を心がけていこうと思います。

看護副部長 平井 孝子



平成24年4月1日付けで、奈良県立五條病院より異動してきました平井です。

大きな組織で戸惑いながらの毎日でしたが、今回、認定看護管理者の認定試験に無事合格したことは、研修に出させていただいた病院・看護部に対して、成果を報告することとなり、ホッとすると共に心から感謝しています。人を大切にするという基軸を持って、人と関わってきました。今回の認定を真摯に受け止め、時代のニーズを見据えながら、改革を続けて地域社会に求められる存在であり続けて行かなくてはならないと思っています。

「明るく、元気に、生き生きと」をモットーに、活動していきます。

看護師長 (集中治療部) 西浦 聡子



2012年に日本看護協会、認定看護管理者の認定を受けました。試験を受けるきっかけは、看護を取り巻く情勢の中で機敏な管理者でありたいと思ったからです。管理者研修で学んだ、組織をマネジメントする「覚悟」、組織のマネジメントを「引き受ける」、組織の目標・私の成果責任は何かの「確認」をいつも自問しています。

自分の管理観を明確にして、言葉にして浸透させていけるように何度も語っていくことを大切にしています。3つの「あ」、あわてない・あせらない・あきらめない、をモットーに頑張っていきたいと思います。これからもよろしくお願致します。

●専門看護師 (Certified Nurse Specialist) ・ 認定看護師 (Certified Nurse)

95年に発足した日本看護協会の資格認定制度は、医療現場における看護ケアの広がりや質の向上を目的とした制度です。専門看護師 (11分野) ・ 認定看護師 (21分野) があり、当院では専門看護師4名 (3分野)、認定分野21名 (12分野) のスタッフが質の高い看護を提供できるよう日々頑張っています。

今年度、1名の専門看護師採用と3名の認定看護師が誕生しました！！

母性看護専門看護師 (Women's Health Nursing)

(A病棟5階) 磯部 美希



本年4月より、A5病棟に所属し、母性看護CNS (認定看護師) として勤務しています。就職後約6カ月は、病棟・産婦人科外来・NICU・パースセンターへのローテーションを行い、専従CNSとしての活動を考えるために看護実践の把握を中心に行ってきました。母性看護CNSの認定者数は、現在38名と他領域に比べ少ないため、「母性看護CNSって何をする人？」と思われる方も多いと思います。

現在、母性看護が対象とする妊産褥婦は、様々な要因でハイリスク化しており、これまで母性看護の考え

方の中心であった「生理的で健康的なプロセスを支援すること」だけでなく「ハイリスクケアを構築すること」が必要とされています。母性看護CNSは、その役割を担う人材の1つとされ、私も、その役割に重点をおいて実践していきたいと考えています。しかし、CNSが単独でできることは何もないため、ケアを受ける対象者と提供する看護者の状況を見極め、自身が直接ケアをするだけでなく、看護職が行うケアの支援や教育、また、各部署の橋渡しを行うなど、CNS自身が形を変えて関わっていききたいと思います。そして、様々な事例を積み重ね、円滑に継続してケアが提供されるように、現在の院内のシステムを改善することにも参画できたらと考えています。

新生児集中ケア認定看護師 (Neonatal Intensive Care)

(NICU) 近藤 さつき



新生児医療が目指すところは「後遺症なき生存」で、看護にも高度な専門的知識・技術に加え、新生児の発達を促すケアが必要です。教育課程では専門的な知識に加え、ハイリスク新生児の声なき声を読み取ることの重要性を教えられました。言葉では表現できない新生児も、様々な反応でストレスや欲求を訴えており、それを読み取り、相手のニーズにあった個別的なケアを提供することが、新生児の正常な発達につながることを学びました。新生児看護には全国的にもルーチンケアが多く存在し、ケア方法のエビデンスも少ないのが現状です。まだまだ未熟ですが、ハイリスク新生児が健康な子どもと同じように発達できるケアの提供を目指したいと思います。

集中ケア認定看護師 (Intensive Care)

(高度救命救急センター) 古賀 麻衣子



集中ケア認定看護師は、重症かつ集中治療を必要とする患者に対して的確なアセスメントを行い、病態の変化を予測・重症化を回避するための援助や早期回復への支援を目的とした看護を実践します。

認定看護師として、自らが役割モデルとなり看護実践を通してスタッフへの看護ケア指導を目指したいと思います。また、スタッフが困っている時には相談を受け、相談者自ら解決の方向を見出すことができるような関わりを持ちたいと思います。さらに、今後は一般病棟において重症患者のケアなどの相談を受け、支援できるように取り組んでいきたいと思っています。日頃、重症患者との関わりの中で困ったことや疑問があれば、ぜひ声を掛けてください。

集中ケア認定看護師 (Intensive Care)

(集中治療部) 小川 哲平



1年目から集中治療部で勤務し、まだまだ難しいと思いながら日々看護しています。集中治療領域では科学的根拠のもと、それぞれの患者、家族の刻々と変化するその時の状況に応じて看護を提供していかなければいけません。二度と同じ事例は来ることはないですが、その一つ一つの関わりを振り返り、今後に役立てていかなければならないと考えています。個人だけで専門性を高めるのではなく、チームとしての看護、医療を考え向上していけるように努力したいと思います。

特別支援学校生徒のインターンシップ受け入れ

特別支援学校生徒の自立支援と医療現場における就労の可能性を広げる目的で、看護補助業務の職場実習を行いました。当院では初めての受け入れで、B病棟5階での実習を3日間行ってもらいました。短い実習でしたが、直接指導者である堀倫史さんを中心に、ベッドメイキングや車いす介助、配膳などの看護補助業務を体験していただきました。

〈実習を終えての感想〉

中野君：「実習での経験を将来に生かしていきたい。福祉の仕事につきたいです。」

堀さん：「看護補助業務をできるだけ丁寧に説明しながら、一緒にできる環境を作りました。今回の実習が、今後の自信につながってもらえるとうれしいです。」



左：中野雅也君（県立高等養護学校2年生）
右：堀倫史さん（B棟5階）

動脈形成に不可欠な遺伝子を発見!

本学内科学第一講座(齋藤能彦教授)・血圧制御学(齋藤教授兼任)・先端医学研究機構循環器システム医科学(中川修教授)の共同研究グループは、TMEM100と呼ばれる新規遺伝子が胎内において血管形成に必須の役割を持つことを世界で初めて報告しました。TMEM100を欠失させたマウスは正常な動脈を作ることができず、生まれる前に全て死亡します。また、TMEM100の発現はALK1受容体シグナルという情報伝達系により調節されることも判明しました。ALK1受容体シグナルの異常は私たち人間の血管病の原因となることが知られており、今後、TMEM100の研究を進めることでこれらの疾患の病態解明につながる事が期待されます。



取材を受ける齋藤教授、中川教授、染川講師(右から)

この成果をまとめた論文は、米国の科学誌『米国科学アカデミー紀要(PNAS)』に掲載されました。7月20日に本学においてこの論文に関する記者会見を開催したところ、7社の報道機関が参加し、関心の高さを窺わせました。この内容は同日放送のNHK奈良放送局の番組で取り上げられると共に、7月21日付けの毎日新聞及び奈良新聞にも掲載されました。

また、筆頭著者の染川智講師は、本研究の成果によりInternational Society for Heart ResearchやJSPS-NOW Joint Seminarにおいて若手研究奨励賞を受賞し、世界最大の循環器学会であるAmerican Heart Association 2012の若手研究奨励賞で最終選考の5人にもノミネートされました。

閉塞性睡眠時無呼吸症候群(OSAS)の個別化治療に一步前進



日本睡眠学会第37回定期学術集会で表彰を受けた山内助教(写真左)

本学内科学第二講座 山内基雄助教は研究論文の中で閉塞性睡眠時無呼吸症候群(OSAS)には多様性があり、その多様性は患者個々の呼吸中枢の不安定性を反映する覚醒時呼吸波形パターンの解析を行うことで識別しうることを明らかにしました。OSASの多様性は治療効果にも影響を与えるため、その多様性を正しく理解することはOSASの個別化治療につながるという重要な意味あいを持つことから、オリジナリティをもった臨床研究として世界レベルで評価されました。

この論文は、第17回日本睡眠学会研究奨励賞に選ばれ、平成24年6月28日~30日に神奈川県横浜市で開催された日本睡眠学会第37回定期学術集会において表彰及び受賞講演が行われました。日本睡眠学会研究奨励賞は、原則として会員歴3年以上で、2011年12月31日時点の年齢が45歳未満の日本睡眠学会会員で、将来性のある優れた研究の原著論文を発表した筆頭著者に贈られるものです。山内先生おめでとうございます。

(看護学科)

第12回 看護学科同窓会を開催しました



記念講演講師
福岡篤彦先生

第12回同窓会を橿原神宮崇教会館内養正殿で6月30日に開催しました。当日は、76名の会員および来賓5名が参加され、総会、記念講演、懇親会を行い大盛況でした。記念講演は、吉野町国民健康保険吉野病院内科部長の福岡篤彦先生を講師に迎え、「笑い笑顔のヒミツー笑いヨガからの提案ー」というテーマでご講演をいただき、引き続き懇親会では参加者全員で実演も行い、会場は笑いの渦に巻き込まれました。参加者の皆さまには、楽しいひと時を共有できた貴重な時間になったと役員一同喜んでおります。



ラフターヨガ実践中!!

Report

承認された規程、委員会名簿等については、随時、ホームページにて公開しています。

学内ホームページURL（閲覧は学内のみ可能）

<http://top.naramed-u.ac.jp/> → 「規程・名簿タブ」

※は、公開ホームページに掲載

<http://www.naramed-u.ac.jp/aff/johokoukai/>

（総務課）

役員会及び教育研究審議会の報告

第12回 役員会（7月4日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
 - (1) 教員の人事について
 - (2) 実験用犬にかかる受益者負担について
 - (3) 職員（言語聴覚士）採用試験の合格者決定について
- 2 平成25年度入学者選抜要項変更のポイントについて報告
- 3 平成24年度医学科第2年次編入学試験（研究医養成コース）志願状況について報告
- 4 平成24年度授業料減免申請者の状況について報告
- 5 明日香村との共同事業の実施について報告
- 6 消防防災計画について報告
- 7 節電の推進について報告

第6回 教育研究審議会（7月5日）

- 1 実験用犬にかかる受益者負担について承認
- 2 平成24年度看護教育講師の称号付与について承認
- 3 教員の人事について報告
- 4 平成23年度決算の承認について報告
- 5 平成23年度 業務実績報告書について報告
- 6 平成25年度入学者選抜要項変更のポイントについて報告
- 7 平成24年度医学科第2年次編入学試験（研究医養成コース）志願状況について報告
- 8 平成24年度授業料減免申請者の状況について報告
- 9 明日香村との共同事業の実施について報告

第7回 教育研究審議会（臨時）（7月10日）

- 1 泌尿器科学教授候補者の決定について承認
- 2 病理診断学教授候補者の決定について承認

第13回 役員会（7月11日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
 - (1) 泌尿器科学及び病理診断学教授の決定について
 - (2) 看護職員採用試験の合格者決定について
 - (3) 看護職員採用予定者に対する就職支度金制度の創設について
- 2 次世代育成支援のための一般事業主行動計画について報告
- 3 早稲田大学・奈良県立医大連携講座の申込者数について報告

第14回 役員会（7月18日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
 - (1) 看護職員採用予定者に対する就職支度金制度の創設について
- 2 共催の名義使用について報告

第15回 役員会（7月25日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
 - (1) 発明届について
 - (2) 看護職員採用試験の合格者決定について
- 2 「厳権会館」使用規程の改定について報告

第8回 教育研究審議会（臨時）（7月31日）

第16回 役員会（臨時）（7月31日）

第17回 役員会（8月1日）

- 1 パワーハラスメントの防止について継続審議
- 2 平成24年度内部監査の実施について報告

第9回 教育研究審議会（臨時）（8月16日）

- 1 発明届けについて承認
- 2 入学宣誓式（2年次編入学）の挙行について報告

- 3 奈良医大・和歌山医大合同学生による災害ボランティアについて報告

第18回 役員会（臨時）（8月16日）

第19回 役員会（8月22日）

- 1 パワーハラスメントの再発防止について承認
- 2 就職支度金について承認
- 3 看護職員採用試験の合格者決定について承認
- 4 平成24年度の財務状況について（6月末現在）報告

第20回 役員会（8月29日）

- 1 懲戒処分にかかる公表基準について承認
- 2 教育研究審議会案件について承認
 - (1) 発明届について
 - (2) パワーハラスメントの再発防止について報告

第21回 役員会（9月5日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
 - (1) 教員の人事について
 - (2) 教員の再任評価について
 - (3) 教員の再任評価に関する見直しについて
 - (4) 大学機関別認証評価の受審について
 - (5) 医学科第2年次編入学学生規程について
 - (6) オックスフォード大学との学術交流協定の更新について
- 2 医療技術職の採用計画について承認
- 3 外国人客員研究員の受入れについて報告

第10回 教育研究審議会（9月6日）

- 1 発明届けについて承認
- 2 教員の人事について承認
- 3 教員の再任審査について承認
- 4 教員の再任手続きに関する見直しについて承認
- 5 大学機関別認証評価の受審について承認
- 6 医学科第2年次編入学学生規程について承認
- 7 オックスフォード大学との学術交流協定の更新について承認
- 8 外国人客員研究員の受入れについて報告

第22回 役員会（9月12日）

- 1 平成24年度の財務状況について（7月末現在）報告

第23回 役員会（9月19日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
 - (1) 法人が承継した職務発明等の登録による知的財産権取得に伴う当該発明者への保証金支払いについて
- 2 平成23年度 業務の実績に関する評価結果について報告
- 3 平成23年度 財務諸表の承認について報告

第24回 役員会（9月26日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
 - (1) 先端医学研究機構医療情報学分野教授選考について
 - (2) 客員教授の選考について
- 2 附属病院規程の改正について承認
- 3 看護職員採用試験の合格者について承認
- 4 教育研究審議会案件について報告
 - (1) 外国人客員研究員の受入れについて
 - (2) 院内緑化の推進について報告
 - (3) 旧がんセンター棟、中棟棟の解体に伴う諸室の移転計画について報告
 - (4) 玄関まわりアメニティ工事概略工程表について報告

「メディア掲載情報」をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を、この「学報」紙面で紹介します。

掲載者	掲載メディア	掲載概要
高倉 義典 先生 (奈良医大 名誉教授)	NHK 『ためしてガッテン 「放置すると危険! 謎の扁平足で骨異常」』 6月20日(水)	扁平足は小児期、思春期および成人期に特有の病態と症状が発生し、ADLの妨げになっています。とくに、近年の高齢化社会および車社会に加えて、中年期の肥満と筋力低下が原因で足の土踏まずを保っている筋肉が機能不全で起こる成人期扁平足が問題となっています。その「危険な扁平足」の病因、治療および予防を紹介しました。
川副 浩平 先生 (聖路加国際病院心 血管センター長) (奈良医大経営審議 会委員)	7月11日:テレビ各社 の夜のニュース 7月12日・13日:各新 聞社(朝日・毎日・読 売・日経)朝刊 8月7日:朝日新聞朝刊	三笠宮崇仁殿下が僧帽弁閉鎖不全による心不全で重篤な状態に陥られたため、7月11日緊急手術(僧帽弁形成術)を行いました。96歳のご高齢でしたが極めて短時間で手術を終えることができ、術後も順調に回復され8月31日ご退院されました。メディアによる報道では、大殿下(宮家の筆頭)に対する心臓手術であったこと、また96歳の超高齢者に対する開心手術であったことが特に注目されました。
和田 佳郎 講師 (第一生理学)	NHK 『ミラクルボディー 内 村航平 驚異の“空 中感覚”』 7月15日(日)	空間識をテーマとした航空自衛隊との共同研究の中で、教室配属の学生5名と共に体操の内村航平選手を被験者として実験を行った。その結果、内村選手は視覚以外(耳石器や体性感覚)の情報を使って「重力方向」を非常に正確に認識していることが明らかとなった。

学報バックナンバーはWebサイト上でもご覧いただけます
(<http://www.naramed-u.ac.jp/info/introduction/magazine.html>)

下ツ道

(編集後記)

この夏はなんといってもロンドンオリンピック、日本選手団のメダル獲得数が38個と史上最多となったこともあり、深夜にも関わらず連日観戦をされたのではないのでしょうか。世界の1位を決める大会、真剣勝負に世界中の皆が熱狂し感動しました。容赦なく順位が決まるからこそおもしろいと言えるかもしれません。

運動会シーズンの秋、勝ち負けも順位もないわが子の運動会ですが、手ぶらで行かせてはもらえません。しっかりカメラを持って応援?録画?に行ってきます。

今村知明

掲載希望の記事等については、各編集委員までお知らせください。

○今村 知明(健康政策医学)
植村 正人(医療安全推進室)
笹平 智則(分子病理学)
藤本 雅文(物 理 学)
坂東 春美(公衆衛生看護学)
堀口 陽子(看護 部)
岡 眞啓(研究推進課)
永井 淳(教育支援課)
吉田 一良(病院管理課)
大野 達也(総務課・広報室)
植松 聡(総務課・広報室)
(○印は編集委員長)

HOGY®

一步先の手術室環境づくりをお手伝いします。

ホギメディカルでは、不織布・キット製品など感染対策製品、および理想的な病院経営を総合的にサポートする手術管理システムをご提供しております。

国内最大級の生産・滅菌システムと全国24箇所の営業所ネットワークによって安定的な製品提供ならびにお客様サポートで「安心」をお届けしております。



広告

株式会社 **ホギメディカル**

本社：東京都港区赤坂2-7-7 TEL:03-6229-1300 FAX:03-6229-1344

このページに広告を掲載しませんか? くわしくはこちら → <http://www.naramed-u.ac.jp/info/introduction/advertisement.html>